

管 区 事 務 所
〒162-0805
東京都新宿区矢来町65番
電話 (03)5228-3171
FAX (03)5228-3175

日 本 聖 公 会

NIPPON SEI KO KAI

PROVINCIAL OFFICE
65, Yarai-cho, Shinjuku-ku
Tokyo 162-0805, Japan
Tel. 81-3-5228-3171
Fax. 81-3-5228-3175

内閣総理大臣 安倍晋三 様
防衛大臣 中谷 元 様
米国大統領 バラク・オバマ 様
四軍調整官 ローレンス・ニコルソン 様

元米軍海兵隊員による女性殺害に強く抗議し、 沖縄のあらゆる危険を撤去することを強く求めます！

元米軍海兵隊員の、今は米軍基地で働く米軍属者によって、20歳の女性社員が殺害された悲しい事件に際し、被害者の女性の魂が主の憐れみによって安らかに憩うことができますように、また残されたご家族の皆様への主の慰めを祈ります。

私たちは日本聖公会に連なる者として、主イエス・キリストの教えに従い、すべてのいのちが尊ばれる社会の実現のために祈り活動しており、この度の元米兵による女性殺害に強く抗議し、またこういった悲しい事件を引き起こす、沖縄のあらゆる危険を撤去することを強く求めます。

3月13日(日)に沖縄への観光客の女性に対して米兵が準強姦事件を起こしたばかりにもかかわらず、またこの度の事件。このような残忍卑劣な事件がこれまで何度も何度も繰り返されていることに、日米両政府、またその関係者はどのように考えておられるのでしょうか。こういったことに対して、これまで『綱紀肅正』とか『再発防止』と言われてきましたが、今もなお同じことが繰り返されています。沖縄の施政権が日本に返還された1972年からこれまでの44年間に、米軍関係者による刑法犯摘発は2015年末時点で5,896件もあり、そのうちの女性暴行事件の件数は130件、148名の被害者を数えていると聞いています。このような状況に、これまで米軍基地に対する抗議、また米軍基地撤去を求め、叫びが何度も何度も挙がってきているのはご承知の通りです。にもかかわらず、今もなお同じことが繰り返され、残忍卑劣な事件が後を絶っておらず、沖縄の皆さんが「もう、我慢の限界だ」と言っておられる叫びに、わたしたちも強く共感しています。

この度のウォーキングをするという当たり前の日常さえ脅かされる危険をはじめ、沖縄では多くの当たり前の日常が脅かされています。例えば、今もなお昼夜を問わず戦闘機やヘリコプターといった様々な軍用機が住宅地や学校の上を低空飛行しています。これによって爆音に苦しめられ、いつ空から危険が降ってくるのかわからない不安にさらされているのです。基地が付近にない人々にとってはそれが当たり前の静けさが、沖縄の皆さんにとっては当たり前ではなく、いつも至る所で生活が脅かし続けられています。

わたしたちは沖縄のあらゆる当たり前の日常を脅かし続けている最大の危険要素である米軍基地の撤去を強く求めます。もうこれ以上、残忍卑劣な犯罪が起きてはならないのです。そしてもうこれ以上、沖縄の皆さんが軍用機による爆音に苦しめられることなく、また、いつ空から危険が降ってくるのかわからない恐怖に怯えることなく生活していただきたいのです。そして、すべてのいのちが尊ばれる、平和な社会になるために、元米軍海兵隊による女性殺害に強く抗議し、沖縄のあらゆる危険を撤去することを強く求めます。

2016年5月24日

日本聖公会 正義と平和委員会
委員長 主教 渋澤 一郎